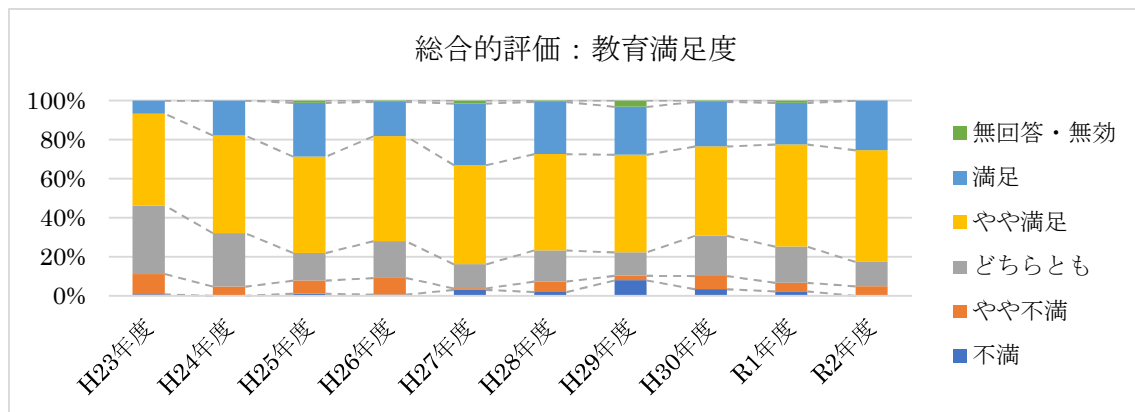


## 令和 2 年度卒業論文提出時調査結果概要

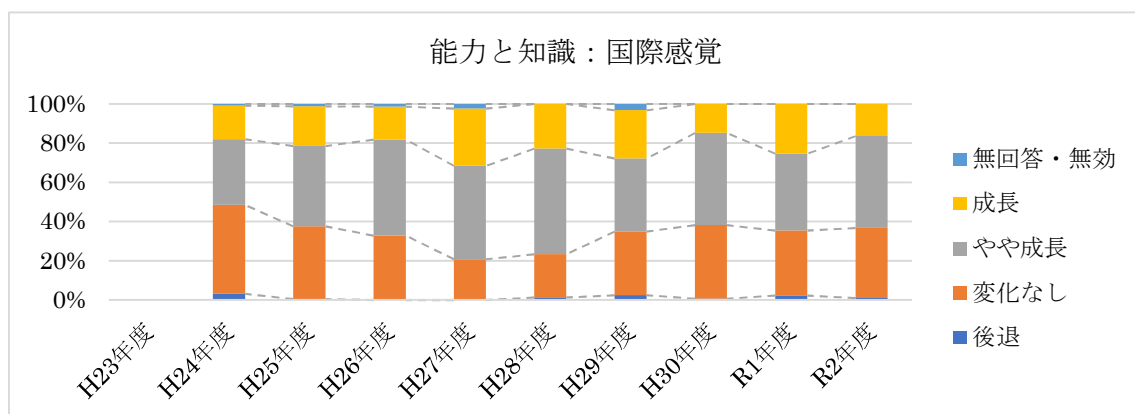
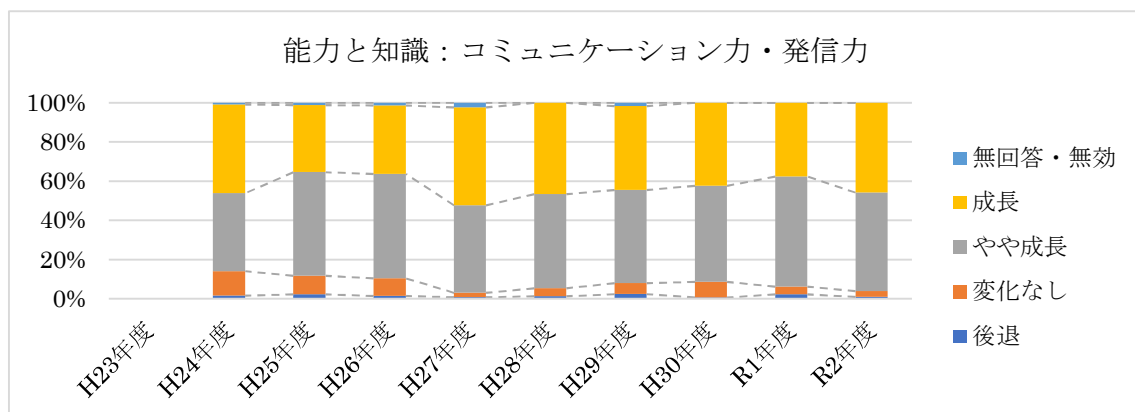
公益学部では、卒業論文を提出する 4 年次を対象にアンケートを実施し、学生の成長実感や満足度等について、過年度との比較を行っている。

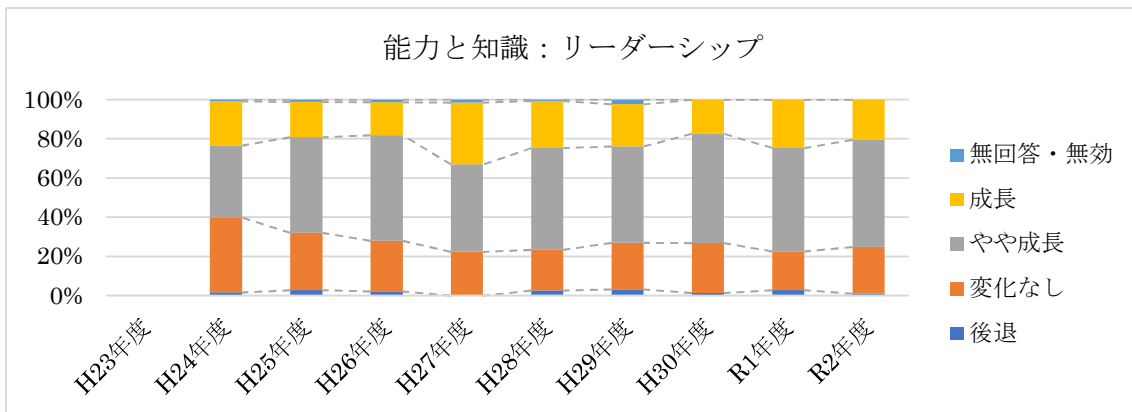
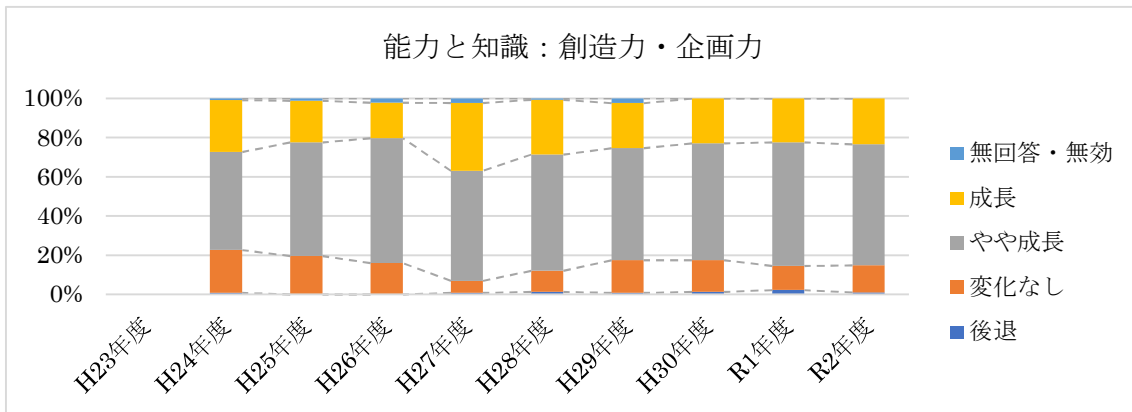
令和 2 年度（令和 3 年 1 月回収）は回収率 100%であった。

以下、重要な項目について分析結果を記す。

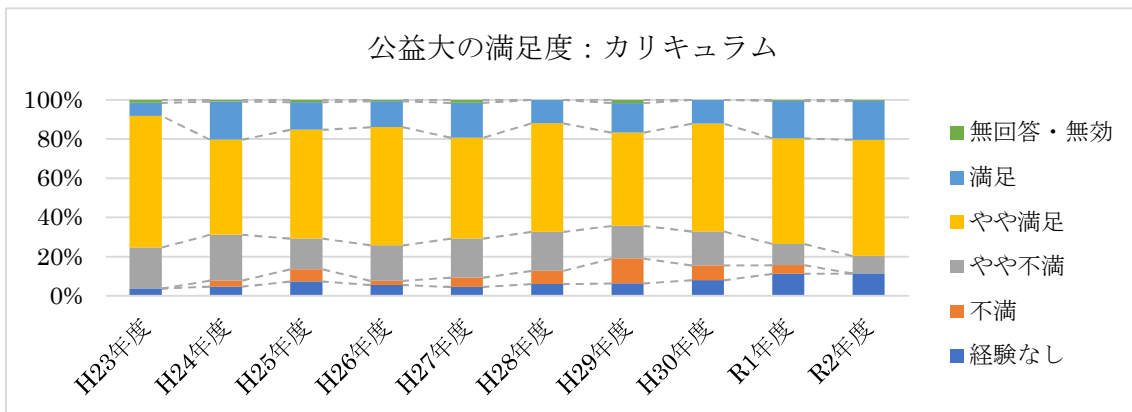


「満足」「やや満足」の合計が 82.6%と、前年度からさらに 9%増え、「不満」「やや不満」と答えた割合は 5.0%と、2 年前からほぼ半減した。平成 28 年度に採択された「大学教育再生加速プログラム (AP)」の取り組みなどによる教育改善の成果が表れているとともに、コロナ禍においても教育の質を着実に改善できたものと評価できる。





「コミュニケーション力・発信力」「国際感覚」「創造力・企画力」「リーダーシップ」の「4つの力」について、「成長」「やや成長」と回答した割合は、いずれもほぼ前年度と同じであった。ただし、「コミュニケーション力・発信力」について、「成長」の割合が45.8%、「やや成長」と合わせると96.0%と、ほぼ全員が成長を実感していることは特筆できる。



「満足」「やや満足」の割合が79.1%と過去10年間で最大になり、「不満」は0名であった。平成26年度入学生から導入された新しいカリキュラムが学生に受け入れられていることを示しているだけでなく、それ以前のカリキュラムと比較しても満足度が高いということは、カリキュラム改革の成果が学生に認められたことを表していると評価できる。